

# 令和5年度第7回 浜松市障がい者自立支援協議会企画会議会議録

1 開催日時 令和6年3月7日（木） 午前10時00分～正午

2 開催場所 浜松市役所 32会議室

### 3 出席状況

エリア連絡会名	所属	出席者氏名	
中エリア連絡会	中障がい者相談支援センター	藤川 晴海	
	中央福祉事業所社会福祉課	飯塚 康敬	
東エリア連絡会	東障がい者相談支援センター	野口 高臣	
	中央福祉事業所（東）社会福祉担当	中谷 知由	
西・南エリア連絡会	西・南障がい者相談支援センター	後藤 翔一朗	
	中央福祉事業所（西）社会福祉担当	杉森 泉	
	中央福祉事業所（南）社会福祉担当	内藤 淳	
北エリア連絡会	北障がい者相談支援センター	本宮 早奈映	
	浜名福祉事業所（北）社会福祉担当	梶田 和彦	
浜北・天竜エリア連絡会	浜北・天竜障がい者相談支援センター	大柳豆 勇太	
	浜名福祉事業所社会福祉課	島田 佐栄実	
	天竜福祉事業所社会福祉課	杉本 太司	
全市	相談支援事業所シグナル	尾関 ゆかり	
事務局	障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	
		山下 由佳	
		玉澤 卓也	
		大軒 優一	
		玉木 祐次郎	
	障害保健福祉課	生活・就労支援グループ	柴田 多美子
			青柳 聖弥
		精神保健グループ	稲見 亮介
医療的ケア児等支援コーディネーター		阿部 祥美	

#### 4 議 事 内 容

- (1) 地域体制強化共同支援について
- (2) 専門部会報告
  - ・ 就労部会
- (3) 日中サービス支援型グループホーム評価の報告
- (4) 令和6年度スケジュールについて
- (5) 来年度の協議会の体制について

5 会議録作成者 障害保健福祉課生活・就労支援グループ 青柳

6 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無

#### 7 会 議 記 録

(1) 地域体制強化共同支援について

○西・南エリアから報告

・令和5年7月と令和6年1月に共同支援会議を開催した。現在6歳、重度の心身障がいと医療的ケアが必要な状況であり、約1年前に計画相談支援事業所から就学先についての相談を受けた。居住地の小学校での受け入れが難しく、特別支援学校についても遠方の学校への入学になる。父母は共働きで送迎が困難、スクールバスについても利用できるか検討が必要であり、どのような支援があればスクールバスを利用できるか等について確認しながら進めた。学校も前向きに検討してくれており、現時点ではスクールバスの慣らし利用を計画している。残された課題として、個別支援に目を向けていくと、胃ろうを注入してすぐは吐き戻しがある可能性があり、生活リズムとして午前5時に起床して午前7時にスクールバスに乗車し、1時間半後に学校へ到着。学校終了後放課後等デイサービスを利用して夕方自宅に戻ることになる。この生活サイクルが本人の心身の健康にとって良いのか。また、そもそも地域の小学校への入学が制限されている現状があることや、特別支援学校への入学についても、障がいの種別で入学先が決まることから、課題が残っていると考える。市教育委員会や医療的ケア児等支援協議会から意見をいただきながら進めていきたい。同様の状況にある方が多数いるということではないだろうが、社会的観点から取り組むべき課題だと考える。

<意見>

・4月からの支援体制はどうなっているか。

→計画相談支援事業所と一緒に状況を確認しながら支援を継続している。父母を交えた面談の中で、これまで主たる介護者は母であったが父の協力も得ながら送迎等を行うことや、母自身の就労への意識に変化があった。入学当初は父母の送迎で通学予定。

・来年度の県教育委員会の医療的ケア児の学校待機の方針に変化があった。学校側ができ

るだけ保護者の学校待機期間を短くできるよう検討している。そういったことも父母の思いの変化に影響したようである。

- ・医療的ケア児等支援協議会について、このような状況にある医療的ケア児の支援についてという視点で協議ができるよう調整中である。
- ・就学判定結果が特別支援学校である場合、県立の学校へ入学していくことになるため、県教育委員会も交えた検討が必要である。
- ・専門部会化については、医療的ケア児等支援協議会での協議状況を踏まえて検討する。

## (2) 専門部会報告

### ○就労部会

#### 【就労アセスメントワーキンググループ】

- ・特別支援学校における就労アセスメントの流れについて提案したい。加えて、アセスメントを実施する上でポイントとなる点として、本人・家族への障害福祉サービス説明時の各機関の共通認識、現在特別支援学校が実施している就労アセスメントの方法、アセスメント実施前の打合せと実施後に行う会議におけるポイント、アセスメント実施結果連絡票及び就労移行支援会議の目的や取扱い、アセスメント実施機関へのフィードバックについて、関係機関に示していきたい。
- ・アセスメント実施結果連絡票について、就労継続支援B型についての適性や本人の希望を記載するのではなく、アセスメント実施結果として福祉サービス全般に一般就労も含め、可能性として該当するもの全てを記載できるようにするとともに、本人の希望についても将来の希望を記載するよう、様式の変更を提案したい。
- ・来年度試行実施をし、結果を元に検証したい。
- ・福祉サービスの利用がない場合、委託相談が支援に関わる。この場合、計画相談の関わりが就労アセスメントだけになり、アセスメント実施後にも委託相談の支援が必要になることが想定されるため、支援体制に委託相談が加わり卒業後の支援につなげていけるよう、就労移行支援会議の中で就労アセスメントの結果が共有され卒業後の就労支援に活かされる仕組みにしていきたい。
- ・アセスメント実施結果連絡票の行政への提出は、支給決定時におそらく家族が行うと思われるが、就労アセスメントを実施した翌年度に提出することになるため、関係機関の間で仕組みを共有しておくことが必要である。

#### <意見>

- ・本人の希望が一番上に記載してはどうか。本人の希望を確認した上で就労アセスメントを実施する流れではないか。

→ワーキングでも議論したところである。最終的に、就労アセスメント前の本人の希望は計画相談支援事業所が作成するサービス等利用計画案に記載されていること、就労アセスメントの実施結果を受けた本人の希望が記載できると良いという結論となり、現在の

連絡票と記載場所は変更していない。就労アセスメント実施後の本人の希望であると思われるように記載を変更していきたい。

- ・ 試行実施については企画会議での協議を踏まえて障害保健福祉課内で調整して進める。

### (3) 日中サービス支援型グループホーム評価の報告

- ・ ガントチャート⑧『エリア連絡会にて構成員等に評価結果のフィードバック』及びガントチャート⑨『エリア連絡会と事業所で協議会からの要望助言内容を共有』し、『次年度の取り組みに向けた報告シート』をエリア連絡会で作成していただいた。協議の中でポイントになった点等について各エリアから報告いただきたい。

#### ○中エリア

- ・ 報告シートに落とし込む中で、次年度に向けた取り組みをエリア連絡会、事業所それぞれがこれまでよりも具体的に計画することができた。
- ・ エリア連絡会として日中サービス支援型に限らずグループホームの横のつながりやネットワーク構築につながる取り組みを実施した。今後も本評価と整理しながら実施していきたい。

#### ○東エリア

- ・ これまでエリア連絡会から事業所へ継続して提案してきた取り組みが具体的に良かった。事業所は、取り組みを計画するに当たり連携する機関を明確にすることができた。
- ・ 評価の取り組みを通して、事業所との連携体制等関係性を構築できた。

#### ○西・南エリア

- ・ 人材育成について、研修会や事例検討会をエリア連絡会としても開催するなど事業所と連携した取り組みについて協議できた。
- ・ エリア連絡会から事業所へ継続して提案してきた取り組みについて、実現できていなかったものを今回改めて検討し、事業所が取り組みやすいよう工夫して提案できた。
- ・ 事業者ごとに本評価に対する関心の差があり、エリア連絡会としてどこまで取り組むのが良いか迷うところがある。

#### ○北エリア

- ・ 課題に対して、事業所としてすぐに取り組むことが難しい現状であるが、事業者として検討していきたいという意見があった。また、事業所の具体的な取り組みを確認することができた。

#### ○浜北・天竜エリア

- ・ 事業所で取り組めることと、事業所のみでは難しいところについてエリア連絡会と連携してできる取り組みについて共有した。また、短期入所の利用状況等現状を踏まえた事業所の具体的な取り組みを共有することができた。
- ・ エリア連絡会構成員から、ネットワーク部会でも共有できると良いという意見があり、次年度検討していきたい。

<意見>

- ・本評価を通して、事業所がエリア連絡会にとって良い社会資源になっていると感じた。また、事業所の支援の質の向上について、事業所で行う研修会や事例検討にエリア連絡会が参加するのはとても良い取り組みだと感じた。エリア連絡会の活動に参加するのは事業所の管理者になりがちだが、事業所で行う研修会等であれば現場の支援員も参加することが出来る。
- ・各事業所における緊急時対応事業等の利用状況の背景には地域性があるだろう。様々な観点から分析し、取り組みを検討できると良い。
- ・東エリアについて、地域に開かれた運営について民生委員等との連携に対する事業所の認識はいかがか。

→エリア連絡会からの提案であり、事業所が具体的な取り組みを検討する際にエリア連絡会が伴走できるようにしたい。

- ・事業所で開催する研修会等にエリア連絡会が参加するに当たり、事業者の方針として実施しているのか、事業所独自で取り組んでいるのかにもよるが、研修会の内容を確認したところ本の読み合わせ等の基礎学習であった。今後、その手法を取っている目的等確認していくが、来年度中間報告を行うに当たり、他エリアの取り組みを当エリアの事業所に紹介したり取り組みに活かしたいので、各エリアの取り組みを共有したい。

→企画会議等で共有していく。

<次年度の取り組み>

- ・次年度が評価後年度になる事業所について、障害保健福祉課から評価後年度に行う実践中間報告及び実践報告シートの作成等について通知する。

(4) 令和6年度スケジュール案について

- ・専門部会を常設し、年3回程度の開催を計画したい。ワーキングについて、強度行動障害については子ども部会と生活部会に分けて取り組みを実施したい。東エリアからの障がいのある人の余暇支援について、就労部会は日中活動も含めた部会の位置づけであることから就労部会での取り組みを計画した。浜北・天竜エリアからの肢体不自由児（医ケア児を含む）の学校卒業後の進路については、西遠地区就業促進協議会内の進路連絡会として共有していく。

<意見>

- ・生活部会では防災、モニタリング検証、強度行動障害支援のワーキングを予定しており、それぞれの開始時期の見通しはいかがか。

→企画会議の案としては、防災、モニタリング検証、強度行動障害支援の順番で計画する。

- ・東エリアの余暇支援ワーキングについて、東エリアとしては担い手不足が主たる課題になっている。担い手は居宅介護の事業所だけでなく研修を受けた個人も担い手になりうるというところで、居宅介護事業所以外に所属する研修修了者も含めて検討していきたい

いと考えていた。

→働き方や通所の仕方を含めて生活全般として検討していくと考え、就労部会に位置付けた。次年度早期に方向性を決めるワーキングを開催して、どの部会で何を取り組むか具体化していきたい。

#### (5) 来年度の協議会の体制について

##### <協議>

- ・エリア連絡会の活動が幅広くなっていることから、テーマを絞って集中して取り組む。
- ・エリアの体制を考える中で、地域生活支援拠点等の取り組みが地域でどれだけ整っているかを念頭に置いた上で取り組みを進める。取り組みを検討する中で他エリアとの連携を検討することもあるだろう。地域生活支援拠点等を念頭に置いた取り組みをエリアで展開してほしい。
- ・今年度までの取り組みで必要なものは取り組む余白を残しつつ、相談支援体制の再編に伴いエリア連絡会についても活動を検証しあり方を模索していく時期だろう。エリア連絡会だけで整理するのは難しく、テーマを決めるに当たり、障害保健福祉課からエリア連絡会構成員に伝えていく必要があるのではないかな。
- ・今まで取り組んできたものを止める判断は、障害保健福祉課ではできない。一方、エリア連絡会の活動の枠組みが示されなければ、エリア連絡会だけで検討していくことは難しい。
- ・地域生活支援拠点等をテーマにして各エリアで取り組み、その他のエリア部会については新しいエリアでどのように実施していけば良いかを検証する期間を設けるのはどうか。
- ・エリア連絡会の活動内容を見直す機会を作れると良い。
- ・地域生活支援拠点等を念頭に置くということは、自分たちの地域がどうなっているのか把握することから始めなければ出来ない。そこからエリアの中でまず取り組まなければならないことが見えてくる。そうすると、地域診断、地域の状況を把握するところから始めることになるだろう。
- ・エリア連絡会の活動を整理する投げかけがあった方がエリア連絡会としては取り組みやすい。エリア連絡会構成員も、自エリアで行いたい取り組みがある方もおられる中で、エリアが再編されたことで、この単位で地域を作っていくに当たり活動を整理する年度が必要だというメッセージを伝えていく必要があるのではないかな。
- ・先の話にはなるが、体制を作っていくときのエリアの規模感は整えていく必要がある。例えば、中エリアは人口が多く、他エリアと同じ手法で考えていくことが出来るのか、エリア全体会で地域課題が出てこないとする、課題が薄まってしまうのか圏域が広すぎて捉えきれなくなってしまうのか。どの位の規模感の圏域があれば良いのか。
- ・令和6年度からの相談支援圏域を検討する際に、障がい者数等で見直した。その際にも

中エリアは1つで良いかという議論はあった。相談支援圏域を分ける時に「3包括で1圏域が良い。」という意見は以前からあった。今後、中央区で考えたときには中エリアを2つに分けることは必要かもしれない。

→中エリア事務局会議で検討した結果、2つに分けるときの事務の煩雑さを考え、一旦は1つでやることにした。

・新しい連絡会の体制は5年、10年を見据えたものになるのか、数年かけて新しい体制に移行していくというスパンか。

→少しずつ変化させていく。先を見据えた上でまず1年、2年を考えていく。

⇒4月のエリア事務局会議で優先して取り組むことを決めてもらい、報告してもらいたい。

・浜北エリアと天竜エリアについて、年度当初は合同で取り組む予定。第1回エリア全体会は前年度の取り組みを報告することがメインなので合同で開催し、各エリア連絡会の方向性について検討していきたいと考えている。

次回企画会議

日時：5月23日（木）10時～

会場：32会議室